

# 2016年4月 薬師岳 BC スキー記録

(記 鳥切昇治)



5月2日、穏やかな朝の薬師岳(太郎山付近より)

期 間:2016年4月29日(金)～5月2日(月)

場 所:北アルプス 薬師岳(2926m)

メンバー:鳥切 昇治単独

## 行動記録

薬師岳登山・スキーの基地となる太郎平小屋は GW の期間中オープンしている。以前から薬師岳の金作谷カールや中央カール等を滑る計画をしたが実現しなかった。今年こそ滑るぞと入山した。

登山口は有峰林道が閉鎖中の為、公式には岐阜側の飛越トンネル入口からとなる。(※今年には積雪が少なく除雪が進み、折立まで入れる状態で此方からの入山者が多かった)

4/29 飛越トンネル入口で車中泊、4/30 太郎平小屋に入ったが、午後から天候が悪化、5/1 天候悪く停滞、残念ながら薬師岳は滑らずに、5/2 飛越トンネル入口へ下山した。

## 4月29日(金) 天候:曇後晴・雪 アプローチ(自宅～飛越トンネル入口)

ゴールデンウィーク初日の混雑を避けるため早朝自宅を出発する。海老名 IC から圏央道に入る。八王子 JCT 手前2kmから渋滞、中央道に入るまで10分程かかり、相模湖 IC 付近まで渋滞する。その後は順調に走り松本 IC から一般道に出た。新島々のコンビニで夕食と朝食の弁当を仕入れ、神岡方面へ向う。安房トンネルを抜けると細かい雪が舞っている。嫌な予感。

栃尾温泉を過ぎ見座発電所の所を右折して大規模林道に入る。良い道で双六溪谷沿いに走ってから山吹峠へ上って行き打保に下る。打保部落ではまだ桜が咲いていたが、雪が舞っていて、木々がうっすらと雪化粧している。

打保から更に山の中へ林道を進む。路面に雪は無い。程なく飛越トンネル入口に着いた。飛越トンネルは閉鎖されている。駐車場には車が10台程駐車している。昼食後、登山口から15分程登ってルートを探して来る。山道には雪は無かったが熊笹に積もった雪が冷たかった。



飛越トンネル入口は木々が雪化粧

快適に寝られるよう寝床を整備して早々に休む。夜中、何台か車が入って来て駐車している様だった。

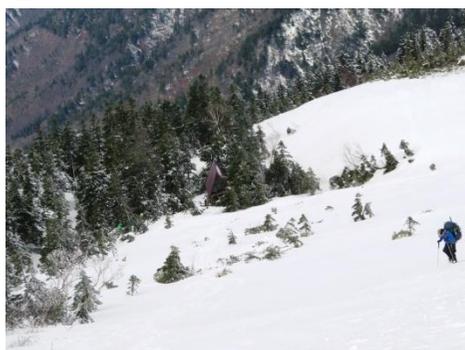
コースタイム

自宅 5:02—5:38 海老名 IC—6:10 八王子 JCT6:17—7:10 境川 PA8:15—松本 IC9:17—9:45 新島々(コンビニ)9:55—安房トンネル 料金所 10:38—見座発電所 11:10—山吹峠 11:26—11:49 飛越トンネル入口

#### 4月30日(土)天候:晴後曇・ガス 飛越トンネル入口～寺地山～太郎平小屋

昨夜は良く眠れた。冷え込んで寒いですが天気は良い。先行して4人が登って行った。後を追う様に出発する。昨日登った尾根筋から送電鉄塔付近まで下る。樹林の中、高度を上げながら登って行くと雪道となる。スキーを履くには無理がある。ぬかるみが多くスキー靴は泥んこである。木の根もあって歩き難い。「1842m地点まで30分」の標識(神岡新道分岐)があり登って行くが、その地点は分らずに通過する。雪上のトレースは左の方へ向っている。先行していた人達がスキーにシールを付けている。しばらく行ってからスキーを履く。暑くなって来た。寺地山付近まで登って行くとブッシュや熊笹が起き、迂回させられて歩き難くなる。

1996mの寺地山に到着。ここからの眺めは素晴らしい。左に薬師岳、正面にドッシリと座る北ノ俣岳、右奥に笠ヶ岳が見える。寺地山から下るがブッシュが起きていて何とも滑り難い。小さな上り下りを繰り返してようやく北ノ俣避難小屋付近に達した。



北ノ俣避難小屋



北ノ俣避難小屋付近から北ノ俣岳

北ノ俣避難小屋は右下の分り難い所にあった。ここから北ノ俣岳への登りにかかる。空がうろこ雲

におおわれて来た。天気が崩れるのか？

斜面の雪が少なく草が露出していて、雪を拾いながら登る。無雪期は池塘になっている付近からの登りは、這松が起きていてスキーで登るのに苦労させられた。上部の雪面に出てホツとする。帰りはどう滑るのか心配になる。空はすっかり雲に覆われ、風も出て来て寒くなって来た。

稜線に近くなると左側から雪混じりの強風が吹き付け、視界も悪くなって来た。傾斜が落ちて来たので左の方へトラバースして広い稜線に出た。薬師岳は雲に覆われている。左下の遠くに太郎平小屋らしきものが見えたので地図を出して確認した。防寒着を出して着込みシーを外す。寒さと強風で思う様にならず時間がかかる。

アイスパーンの緩い斜面、スピードを抑えて慎重に滑る。なだらかなピークを捲くと滑り易い雪にvariety機嫌で滑る。なだらかな太郎山へ登り返すと下方に太郎平小屋が見えて来た。一安心し、太郎平小屋の裏手に滑り込む。

受付を済ませ案内された部屋は、奥の右手の二段になったウナギの寝床の下段で凍えそうな寒さ。乾燥室で暖まり



太郎山手前から雲に覆われる薬師岳

ながらスキー靴やシール等を干す。暖房が入っている食堂に行くと入口脇に炬燵が二つあり、三人が入っている炬燵に入れて頂く。新潟から来た方々で、広野さんと言う方が私と同じ歳の1940年生まれで話が弾む。幸いなことに、三人の部屋に入れて頂く事になった。荷物を持って移る。食堂の上の部屋で暖かい。以後三人と行動を共にする。

外は大分荒れている様で風の音が凄い。会の福沢・富岡パーティが、予定では太郎平小屋に入る事になっているが来ていない様だ。



太郎平小屋の夕食

夕食は6時。宿泊者は40～50名位。夜の天気予報で残念ながら明日は天気が悪そうで薬師岳に行く事は出来ないかも知れない。

コースタイム

飛越トンネル入口 5:30—9:24 寺地山(1996m) 9:28—10:22 北ノ俣避難小屋 10:34—12:40 稜線(神岡新道分岐) 13:10—13:50 太郎平小屋(泊)

### 5月1日(日)天候:曇・雪・ガス 太郎平小屋停滞

朝食6時。外はガスで強風が吹き荒れ、積雪もあった様で停滞する事にした。宿泊者のほとんどは停滞を決めた様だ。会の福沢・富岡パーティが気になって外へ見に行くが来ていない様子が無い。

明日の天気予報は良い様だ。5/3は晴後雨となっている。今日停滞したので一日伸ばして明日薬師へ行くことを考えたが、5/3の下山の天気が気になる。単独での行動を考えると、予定通り明日下山する事を決めた。小屋の中で一日のんびり過ごす。



太郎平小屋で停滞する



太郎平小屋脇に張ってあるテント

太郎平小屋50年史を読んだ。小屋のご主人は五十島さんと言う。昭和38年1月の愛知学院大学の薬師岳遭難事故(13名死亡)の捜索活動記録が生々しく書かれていた。当会の中村・安部両氏の前穂東壁 D フェース(1967年3月)の遭難、捜索活動の記憶が蘇って来てマイッタ。

**5月2日(月)天候:晴 太郎平小屋～寺地山～飛越トンネル入口～自宅**

静かに朝日に照らされる薬師岳を背に太郎平小屋を出発する。風は少し強いが寒くは無い。固く締った雪を踏みしめて歩く。朝



遠くに白山、右下に有峰湖

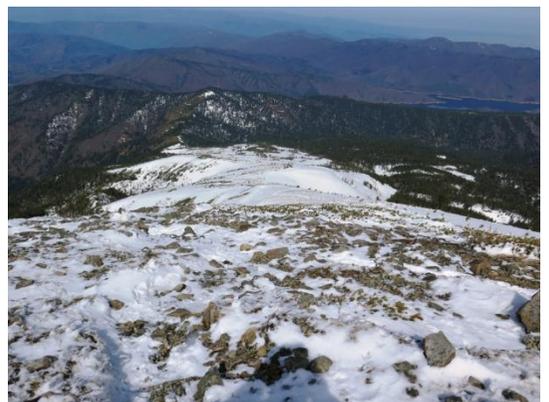


静かに朝日に照らされる薬師岳

起きた時は曇っていたが次第に晴れて来て視界も良く、素晴らしい眺めである。



槍ヶ岳が見えて来た



神岡新道分岐から下山路を俯瞰

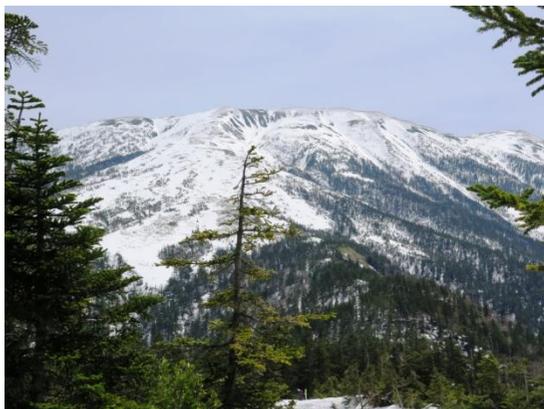
有峰湖が右下に見え、遠くに白山が雲の上に浮かんでいる。神岡新道分岐まで休まずに登る。北ノ俣岳から下りて来た二人と話を交わす。今朝、北ノ俣避難小屋から登って来ての帰りだと言う。

北ノ俣避難小屋に向って滑走を開始。登りで苦勞した這松帯の箇所は右手の急斜面を滑って通過する。下部に来て雪が少ない所は左の方へ雪を拾いながら雪面に出て、北ノ俣避難小屋の上に滑り込んだ。滑り易い雪でご機嫌で滑り、昨日滑れなかったモヤモヤした気分がスッキリした。

寺地山の登りにかかる手前からスキーを担ぐ。暑くて汗びっしょりで寺地山に到着。ザック



北ノ俣岳から滑って来た



寺地山から北ノ俣岳



寺地山に到着

を下して眺望を楽しむ。新潟の3人組は今頃薬師岳を滑っていると思うと残念無念である。

標識に寺地山は三等三角点と書いてあった。入山時スキー登行で苦勞した所も歩きでは問題無く通過する。雪が次第に消え泥んこ道となり慎重に歩く。「飛越トンネルまで30分」の標識を見て元気が出る。送電鉄塔が見えて来て飛越トンネル入口まであと少しと分り、ホッとする。



送電鉄塔が見えて来た

飛越トンネル入口の駐車場に到着。汗びっしょりで着替えをしてから帰り仕度をする。大規模林道を走る。山吹峠を下り双六溪谷



飛越トンネル入口の駐車場に到着

に入ると急に緑が多くなり春を感じる。

見座発電所の所から国道に入る。平湯の温泉施設「ひらゆの森」で汗を流し帰路に着く。車は多いが渋滞も無く松本ICから長野道に入る。行動食のみで走って来たので双葉SAで夕食を食べる。小仏トンネル起点の8km渋滞表示が、走り出した頃は4kmに減少していた。渋滞は速度を落として走行する程度で抜け、八王子JCTから圏央道に入り、海老名ICから一般道に下りて自宅に無事戻った。

#### コースタイム

太郎平小屋 6:50—8:20 神岡新道分岐 8:50—9:05 北ノ俣避難小屋 9:08—9:15 寺地山コル(スキー脱ぐ)9:40—10:15 寺地山 10:25—(1842m地点) 11:02—(12:05~12:10 休憩)—13:14 飛越トンネル入口

(帰路) 飛越トンネル入口 13:55—見座発電所 14:30—15:02 平湯(ひらゆの森) 16:03—(コンビニ 17:00~17:13)—17:30 松本IC—18:23 双葉SA 18:54—19:48 八王子JCT—海老名IC 20:05—20:54 自宅 (全走行キロ数 642.4km)

#### [ルート概念図]



以上